

R011-16

C 会場 : 11/7 PM1 (13:45-15:30)

14:15~14:30

WDS Asia-Oceania Network による Open Science/Data 活動の推進

#渡邊 堯¹⁾

⁽¹⁾ 情報通信研究機構

WDS Asia-Oceania Network: Promoting a Regional Open-Science/Data Activities

#Takashi Watanabe¹⁾

⁽¹⁾NICT

The WDS Asia-Oceania (A&O) Network is a platform to reinforce capacity-building activities on data led by the WDS community in the A&O area to create a collaborative network to reinforce local-based efforts on the preservation and the provision of science data. This activity has been initiated when the WDS International Programme Office was hosted by the National Institute of Information and Communications Technology (NICT) in Tokyo, Japan, from FY2011 to FY2021. During this interval, international conferences on the current status of data-related activities in the A&O area were held three times (2017, 2019, and 2020, respectively). Through these activities various problems were found in the current status of the Open-Science/Data activities in the A&O area, e.g. weak infrastructure on data management¹. As an action to resolve these problems, the WDS community in Japan is preparing a website² to support grassroots activities by unifying efforts to create a collaborative network among data repositories and data-oriented scientists having sympathy for the endeavor of WDS.

¹<https://takashiwatanabe.wixsite.com/wds-japan>

²<https://takashiwatanabe.wixsite.com/wds-asia-oceania>

2011-2021 年度に亘って、我が国が WDS 国際プログラムオフィス (WDS-IPO) をホストしたことを契機として、アジア・オセアニア地域 (以下 A&O) に WDS を軸としたデータ関連組織の連携態勢構築の機運が生まれた。そこで日本学術会議情報学委員会 WDS 小委員会と WDS-IPO との協働により、2017-2020 の各年に 2 回の WDS A&O Conference を含む国際研究集会を開催し、WDS 加入メンバーだけでなく、旧 WDC 系リポジトリや WDS に関心を持つデータリポジトリ等によるコミュニティの形成を進めて来た¹。2010 年台前半に行われた A&O 地域における研究データリポジトリの予備調査では、特に東南アジア諸国において活動しているリポジトリの殆どは、国勢調査や経済活動のデータなどを公開する政府機関や、やはり政府系の地球観測衛星データの公開機関等に限られ、研究活動によって取得されたデータを各自で公開するようなケースは、超高層分野など、極く一部の研究分野に限られていることが分かった。しかし最近では、国際的な Open Science に向けた流れに沿って、特に東南アジア諸国において、UNESCO や OECD 主導の Open Science 対応組織の開設や、Open Knowledge などの国際団体によるプラットフォームの構築が急速に進みつつある。またマレーシアのように、官民共同で Open Science プラットフォームを構築した例も見られ、2010 年台前半とは格段に様変わりしている²。しかしデータに関しては、従来から公開が進んでいた政府機関系データが主体であり、研究データはほとんど見られない (データ公開ポータルが設定されていないプラットフォームも多い)。この状況は地域における研究活動基盤の弱さを反映しており、Open Science 活動が進展するにつれて、改善される方向に動くことが期待されるが、研究者にデータ公開に向けるためには、国際的な働きかけと協力が重要と思われる。また各国における Open Science 活動が、様々な活動基盤の上で個別に行われるようになると、データを見つけること自体が難しくなったり、データポリシーの不統一などの問題が発生することが予想されるため、やはり WDS のような国際データ組織による連携態勢の確保が必要である。以上の観点から、WDS A&O Network のような活動を、我が国として継続的に発展させて行くことが重要と思われる。超高層分野では A&O 各国で種々の観測データの取得が行われているため、国際連携によって観測データの現地保全・公開態勢の整備を進めることは、良い先行事例になり得る。

¹<https://takashiwatanabe.wixsite.com/wds-japan> (WDS 小委員会試験サイト)

²<https://takashiwatanabe.wixsite.com/wds-asia-oceania> (WDS A&O Network 試験サイト)